

広島大学病院診療支援部リハビリテーション部門

集中治療病棟理学療法研修（フェロシップ制度）

2020年8月

広島大学病院診療支援部リハビリテーション部門

救命・集中治療病棟担当チーム

I. 背景

平成30年から早期離床・リハビリテーション加算が算定できるようになり、ICUでチームとしてリハビリテーションを提供することが標準的な治療として認められている。一方で学部教育の中で集中治療に関する知識を学習する機会は少なく、卒後教育が果たす役割は大きい。当院では平成23年より集中治療病棟理学療法研修を開始し、1年間を通じてICUや高度救命救急センターに終日勤務する中で、他職種と協働しながらリハビリテーションを提供する形の研修を実施している。

II. 研修の目的

ICU・高度救命救急センターに入室する患者に対して、医師・看護師等の他職種と協働して標準的な理学療法を実践できる理学療法士の基礎を習得すること。

III. 基本理念

- ・どのような患者に対しても同僚や他職種と議論して、根拠に基づいた理学療法プログラムを立案し、安全に実施し、介入効果を検証することができる理学療法士となるための基礎を身につけること。
- ・主体的に学習・経験し、他者に伝える習慣を獲得し、研修終了後も環境に左右されずに継続して成長できる人材となること。

IV. 基本方針

- ・ICUにおける標準的な理学療法の実践
- ・臨床疑問の認識と解決の実践

V. 目指す理学療法士像

- ・ICU入室患者のADLを改善し、QOL改善に寄与する理学療法士
- ・他職種とコミュニケーションをとり患者にとって最善の理学療法を提供することができる理学療法士
- ・根拠に基づいた標準的な理学療法を提供することができる理学療法士

VI. 研修内容

- ・経験できる疾患

当院の集中治療病棟には広島県内から小児から成人まで、また内科系疾患から外傷を含め多岐にわた

る年齢・症状の患者が搬送されてきます。そのため、集中治療病棟での研修では、敗血症、ARDS、肺炎、間質性肺炎、心筋梗塞、脳出血、頸髄損傷、骨盤骨折や四肢外傷、切断、外傷性くも膜下出血、広範囲熱傷など多岐にわたる疾患を経験することができます。

・多職種チームの一員としての活動

PADIS（痛み、不穏、せん妄、不動、睡眠）管理チームや呼吸サポートチームなど多職種チームの一員としても活動して、他職種とのコミュニケーション方法を学ぶことができます。また、体外式膜型人工肺（VV-ECMO）症例は国内トップレベルの症例数があり、理学療法士も医師、看護師、臨床工学技士など多職種と一緒にチームとして診療にかかわっています。